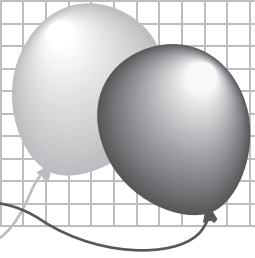


話題の広場



中央会事業 より

マーケティング調査・試食評価会を実施！

11月13日(土)～14日(日)、首都圏攻略プロデュース事業で採択した2商品「(仮称)焙煎米粉かすてら」と「(仮称)秋田米菓子五穀豊穰」(採択の決定については10月号に掲載)のマーケティング調査を、東京都の「あきた美彩館」で実施しました。

両日とも、会場はたくさんの来館者で賑わい、予定していた調査サンプル数を上回る調査集計を得ることができました。試食した来館者からは、「米粉を使った商品を初めて口にした」、「購入したいが、まだ販売していないのか」という声もあり、商品の食味やサイズを中心に様々な意見が寄せられました。

なお、今回の調査実施により、「あきた美彩館」における集客・売上が通常よりアップする等の相乗効果を得ることもできました。

また、翌日は、同商品の試食評価会を「アルカディア市ヶ谷」で開催し、在京秋田県高等学校同窓会連合会、首都圏秋田県人会連合会、首都圏秋田懇話会の会員による試食評価が行われました。出席者からは、「(米粉らしい)もちもち感をもっと出した方が良い」、「首都圏向けに販売するには、もっと甘さを抑えても良い」という意見や、「秋田らしさをもっと鮮明に出すべき」など、商品コンセプトやパッケージ内容を含めた建設的な意見が多数寄せられました。

さらに、11月27日(土)には秋田市の協同組合秋田市民市場においてもマーケティング調査を実施しました。本会では、各々の調査結果の分析を行い、「首都圏で売れるための商品戦略の立案」に取り組み、商品改良を経て、来年2月中旬には「あきた美彩館」で開催予定の販売促進イベントで新商品として披露する予定です。



試食後のアンケート調査に答える来館者

ポイントカード・サミットを開催！

11月4日(木)、秋田市のホテルメトロポリタン秋田において、県内のポイントカード事業を行う組合や任意団体を対象に、「ポイントカード・サミット」を開催しました。

基調講演では、株式会社神田経営研究所の神田邦夫所長から「ポイントカード組合が抱える課題とその対応について」と題した講演が行われました。

神田所長は、「新規客を獲得するには、ポイントが多く付く目玉商品やポイントでしか買えないお買得商品をつくること、また、固定客向けには、誕生日にポイントをサービスすること」などの事例を挙げ、狙いを絞って徹底的に取り組めば大手量販店と差別化が可能であると述べ、効果を上げるために売上の目標数値を設定することなどが提案されました。

講演の後は、「組合の組織力強化とポイント売上高増加のための取り組みについて」と題して、県内外の組合理事長等によるパネルディスカッションを行い、各組合の先進的な事例が紹介されたほか、ポイント売上高増加のための工夫、助成金の活用の仕方などについて、活発な意見交換が行われました。



情報連絡員会議を開催！

11月10日(水)、秋田市のホテルメトロポリタン秋田において、「平成22年度情報連絡員会議」を開催しました。

会議では、株式会社東京商工リサーチ秋田支店の芳賀一智支店長から「東京商工リサーチに学ぶ～データの読み方・使い方～」と題した講演が行われました。

芳賀支店長は、過去の政策支援の事例や金融円滑化法に基づく措置の実施状況などのデータを基に、県内企業の現状について説明され、「増収増益を続けている会社は、ネット販売で売上を伸ばすなど、県内だけの商売に拘っていない。また、100年以上続いている

会社の特徴は、多角経営はしていないこと、本業を重視し、その中に新しいものを取り入れていることである。人口や企業が減ることなく、本県がもっともっと元気になっていくことを願いたい。」と語りました。

講演終了後は、各業界の景況等について意見交換が行われ、出席した情報連絡員からは、「豆腐の新たな販売先を求めて、病院食や業務食にも目を向けていく」、「繊維は中国での生産コストが上昇してきており、日本に生産が戻ってくると業況も明るくなるのではないかと期待している」、「補助金を活用して商店街のイルミネーション・イベントを実施する」などの報告が寄せられました。



「下請ガイドライン」無料説明会の開催組合を募集中です！

本会では、業種別の「下請ガイドライン」の説明会を無料で開催し、ガイドラインの概要や各業界の特性に応じたベストプラクティス事例（理想的な良い取引関係）について普及啓発をすることにより、下請適正取引の推進を図ります。

つきましては、「下請ガイドライン」説明会の開催を希望する団体を4団体募集しますので、ご希望・ご関心のある事業者及び団体の方は、本会へお問い合わせください。

- 対象者 下請事業者及び親事業者の外注（購買）業務を管理する者等
- 実施期間 平成23年1月末まで
- 説明内容 下請代金支払遅延等防止法、下請中小企業振興法、業種別ガイドライン、ベストプラクティスの概要説明等（所要：約2時間）
- 開催形式 単独での開催をはじめ、団体役員会・研修会などの他行事との抱き合わせ開催も可能
- 開催規模 10名～50名程度
- 開催費 無料
(講師派遣料、会場費、テキスト代)

【申し込み・お問い合わせ先】

本会調査広報課 TEL018-863-8701



国土交通大臣賞を受賞

～能代山本生コンクリート協同組合～

10月26日(火)、東京都の東海大学交友会館において、平成22年度リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰式が行われ、能代山本生コンクリート協同組合（佐々木鉄美理事長、3組合員）が国土交通大臣賞を受賞しました。

同表彰は、リサイクル活動を通じて顕著な実績を上げている取組を讃えるもので、同組合を始め、県建設交通部建設管理課技術管理室、東北電力(株)能代火力発電所及び東北発電工業(株)能代支社が協力し推進してきた「フライアッシュ混合コンクリートの標準使用化」が高く評価され、4者連名での受賞となりました。

フライアッシュ混合コンクリートは、耐久性に優れ、ひび割れ現象が起りにくいといった長所があり、約3年間にわたる検討や試験施工を経て、今年4月から能代・山本地域での標準使用が開始されました。県内で生産されるフライアッシュの地産地消の流通体系が確立されることで、流通コストの縮減や環境負荷の低減といった総合的な効果が期待されています。

表彰式典には、同組合からは佐々木憲昭副理事長と組合役員2名の方々が出席し、国交省の北村隆志総合政策局長から佐々木副理事長に表彰状が手渡されました。

受賞にあたり、同組合では「関係各位のご協力の結果、名誉ある表彰をいただきました。これからは、全県域にフライアッシュ混合コンクリートが普及するよう期待しています。」と話しています。



佐々木副理事長（右から2人目）と受賞者の皆様

経営革新計画が承認

～企業組合秋田福祉サービス～

企業組合秋田福祉サービス（鎌田憲悦理事長、4組合員）が、11月4日(月)、県より経営革新計画の承認を受けました。

承認を受けた計画のテーマは、「学童保育を併設した認知症多機能型在宅支援施設の開業・運営」で、認知症高齢者の軽度から重度・看取りまでの総合介護サービスを、学童保育を組み合わせた新たな介護環境において提供するものです。

鎌田理事長は、「高齢者も子供も、分けることなく、どちらでも地域で協力しながら育てるべきと思っている。また、学童保育の併設により、子供達の親とも交流ができ、その力を借りて介護に関して地域が必要としていることに取り組める可能性もある。認知症は、介護の大変さから家族や回りに与える影響が非常に大きく、また、1人暮らしで引きこもりになっている場合もある。そのような高齢者が多くなっていることを地域の人たちにも情報発信していきたい。施設では、認知症のお年寄りと子供達が日常的に接し、バザーの開催などで交流を持つなど、高齢者と子供、そして父兄が自然に触れ合える環境を作りたい。」と話し、「家族が安心して仕事や学校に集中できるよう、秋田が元気になるための下支えをしていきたい。」と抱負を述べられました。

また、今回の申請にあたっては、本会の中小企業応援センター事業で支援を行っており鎌田理事長からは「自分一人では成し得なかった



現在の本組合施設「ふきのとう」

部分も専門家の方々からご協力をいただき計画を練ることができた。」と喜ばれました。

140 会員)では、会員企業の新商品開発、販路拡大及び農商工連携の促進を目的として、盛岡市の株式会社戸田久姫神工場と花巻市の岩手阿部製粉株式会社を視察研修しました。

株式会社戸田久は、昭和 23 年に創業し、当時から南部そばの製造販売等に加え、昭和 56 年には「北緯 40 度もりおか冷麺」を開発し、現在は「盛岡冷麺ブーム」にも後押しされ売上を伸ばしています。当日訪問した姫神工場は、冷麺以外の商品を製造していますが、最新鋭の衛生設備が施されており、レストラン兼直売所「久田屋」が併設されています。

また、岩手阿部製粉株式会社は、昭和 29 年に創業し、当時からの上新粉・牛皮粉の製造に加え、現在は雑穀や野菜等も取扱い、すべて自社で製粉しています。さらに、日本で最初に冷凍和菓子を開発・販売したことで知られており、衛生管理・品質管理には大企業と同等のルールが設けられ、会社内の 5S も徹底されています。

10 名の参加者は、熱心に説明を受け、2 社の衛生管理等、食の安全・安心への取組意識の高さに刺激を受け、今後の企業活動に意欲を高める好機となりました。

また、当日は、いわて食品産業クラスター協議会との懇談会も開催され、同協議会の役員を始め、事務局を努めている岩手県中央会の担当者も出席し、各々の現状や今後の活動方針について意見交換が行われました。



支援団体 活動レポート

先進企業を視察 ～あきた食品振興プラザ～

11月4日(木)、あきた食品振興プラザ(後藤一会長、



事務局訪問！ 組合ティールーム

秋田県葬祭業協同組合

事務局長 小松昭夫さん



—仕事の内容を教えてください。

総会を始めとする各種会議や研修会の開催のほか、各種情報の収集と組合員への提供、経理などの事務全般を1人で行っています。

—今、熱中していることは何ですか？

読書です。これまでは歴史物が好きで長編小説をよく読んでいましたが、この度、友人から西村京太郎の十津川警部シリーズの小説を数冊もらいました。面白くて、今は夢中で読んでいます。また、以前は車で行っていた所へも、最近ではできるだけ電車を利用して行くようにして、読書の時間を作り、移動中の車内でゆっくり楽しんでます。

—お仕事への心掛けは？

時代の流れにより葬儀の在り方がどんどん変化してきています。組合員各社がその変化を肌で感じて、対応できるように、全国規模で開催されるセミナーや研修会などの情報を集め、適宜提供していきたいと思えます。

—組合のPRをお願いします。

組合では、県の生活センター等の依頼を受け、消費者の方々を対象に葬儀全般についての講演を行っています。当日、組合では、作成したパンフレットを持参して葬儀に関する説明を致しますので、皆様からのご要望をお待ちしております。